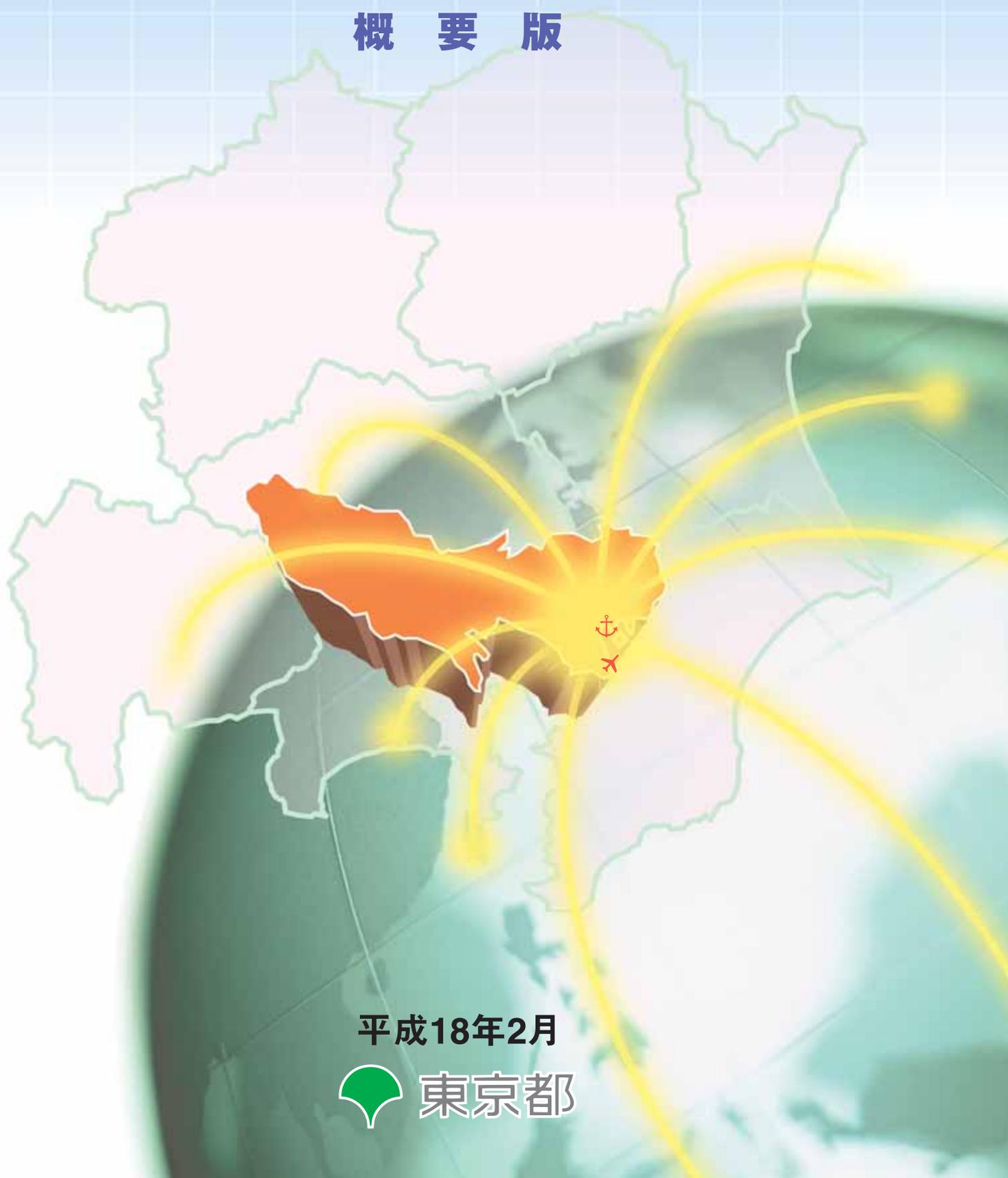


東京からはじまる物流改革

総合物流ビジョン

概要版



平成18年2月



東京都

■ 総合物流ビジョンとは

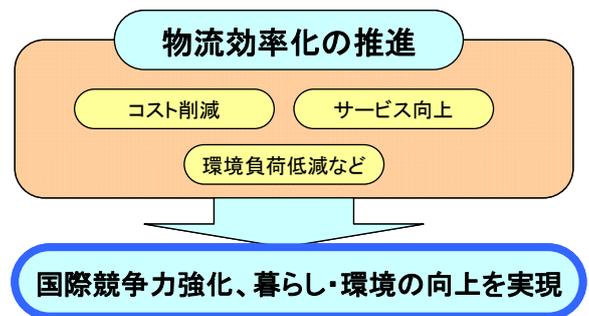
- ・ 私たちの生活や産業活動は、物流によって支えられており、国際競争の激化、京都議定書の発効など、社会経済情勢が激しく変化するなか、広範な視点から物流の改革が求められています。
- ・ 物流活動は、主に民間が担っているものですが、公共側としても物流基盤の整備や民間の取組に対する支援などを行い、民間と連携して物流改革を推進することが必要です。
- ・ この「総合物流ビジョン」は、今後の東京都における物流対策の基本的な考え方をまとめたものです。今後、このビジョンをもとに、東京都は率先して物流改革を推進していきます。

■ 求められる東京発物流改革

1 東京発物流改革のねらい

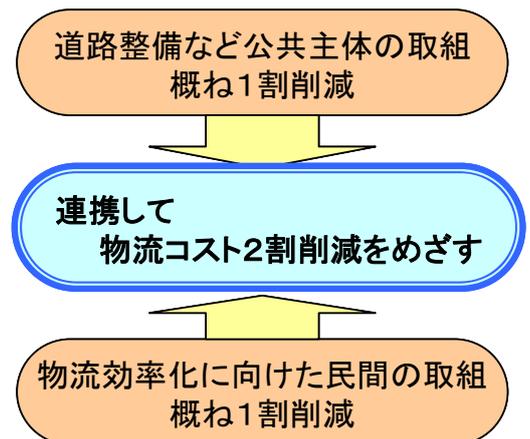
～ 物流効率化を推進し、国際競争力強化、暮らし・環境の向上を実現 ～

- ・ 物流を取り巻く環境が急激に変化するなか、物流におけるコスト削減、サービス向上、環境負荷低減など、物流効率化が不可欠です。
- ・ 民間と公共が連携して物流効率化を推進することで、国際競争力の強化、暮らし・環境の向上を実現していくことをめざします。



2 物流コスト2割削減をめざす

- ・ 物流効率化のなかでも、物流コストについては、民間と公共の取組により、今後概ね10年程度で2割削減することをめざします。
- ・ 公共側では、道路等の物流基盤の整備などにより、概ね1割削減をめざすとともに、民間を様々な形で支援し、民間の取組をあわせて、概ね2割の削減をめざします。



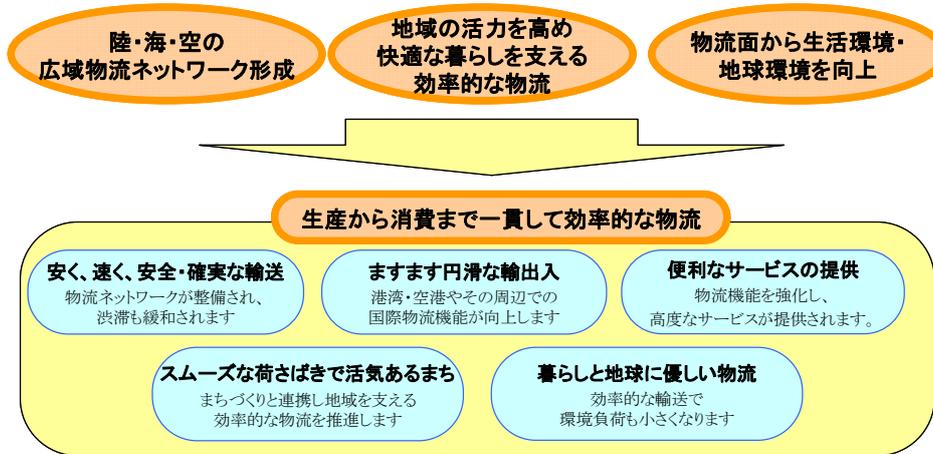
3 個別対策から連携型総合対策への転換

- ・ 抜本的な物流効率化に向けて、ハード・ソフトあらゆる分野の取組を連携していくとともに、民間の現場の発想を活かし、民間と公共が連携して施策を展開していきます。
- ・ 首都圏を視野に入れ、他の関係自治体や国などにも働きかけ、民間、公共が一丸となって物流効率化に取り組みます。

■ めざすべき将来像と対策の方向性

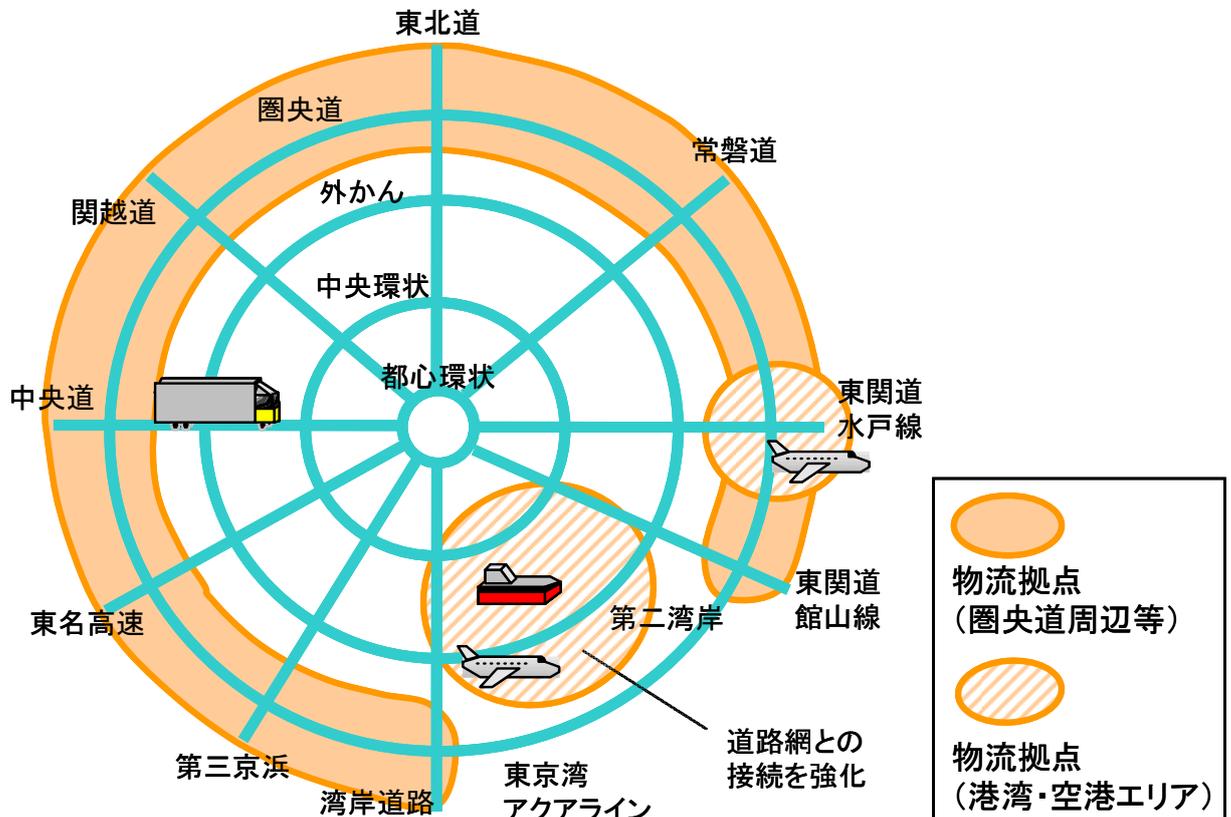
1 めざすべき将来像

広域物流ネットワークの形成、地域の活力を高め快適な暮らしを支える効率的な物流の実現などにより、生産から消費まで一貫して効率的な物流をめざします。



(1) 陸・海・空の広域物流ネットワークの形成

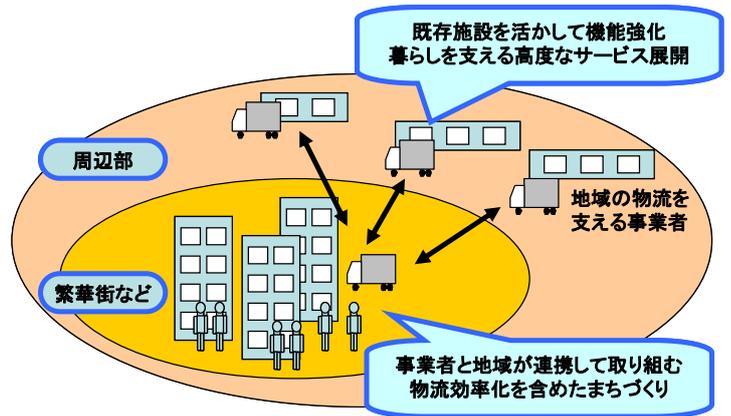
- ・ 広域的な輸送網・・・東京港や羽田空港など港湾・空港での物流機能を強化し、これらと内陸部の生産地等の円滑な輸送網を確保します。そのため、3環状9放射などの高速道路を中心とする道路網と港湾・空港エリアとの接続を強化するとともに、大型貨物車の走行上のボトルネックを解消します。
 - ・ 物流拠点・・・東京港や圏央道周辺等において広域的機能を担う民間の拠点立地を促進します。
- ⇒広域的な輸送網と物流拠点が有機的に結合した陸・海・空の広域物流ネットワークを形成します。



注：道路網は国土交通省3環状9放射の整備方針等を踏まえて、都が物流対策上望ましい将来像と時期のイメージとして図化

(2) 地域の活力を高め、快適な暮らしを支える効率的な物流

- ・地域の物流を支える事業者による既存施設を活かした物流機能強化を支援します。
- ・繁華街等において事業者や地域の様々な関係者間の連携による物流に配慮したまちづくりを促進します。

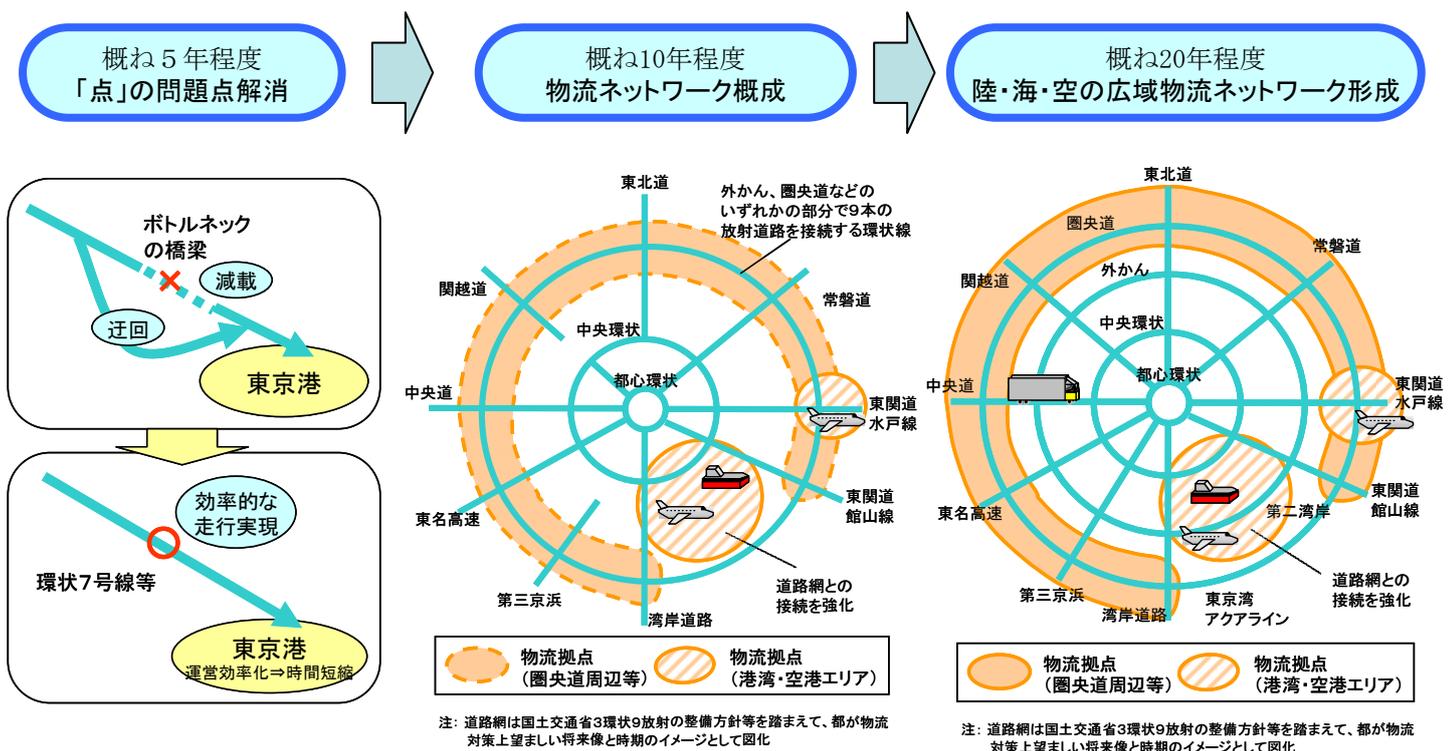


(3) 物流面から生活環境・地球環境を向上

- ・生産から消費まで一貫した物流効率化を推進し、輸送に伴う環境負荷が低減されるなど、物流面から生活環境・地球環境を改善します。

2 将来像実現に向けた取組目標時期

- ・概ね5年程度・・・地域における荷さばき対策の推進や、中小企業における物流効率化など、ソフト面の支援策の確立や仕組づくりを推進します。
陸・海・空の広域物流ネットワークの形成に向けて、走行ルート上のボトルネック解消など、「点」の問題箇所の解消をめざします。
- ・概ね10年程度・・・中央環状品川線などの道路網と、機能強化された東京港、羽田空港などとを接続するとともに、港湾エリアや圏央道周辺等における物流拠点の立地を促進し、物流ネットワークの概成をめざします。
- ・概ね20年程度・・・広域的な輸送網と物流拠点が有機的に結合した陸・海・空の広域物流ネットワークの形成をめざします。



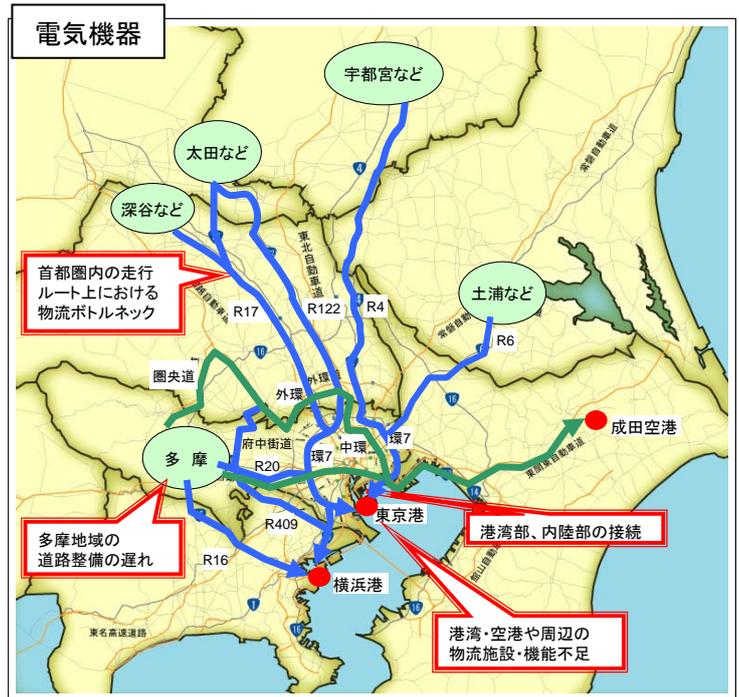
■ 首都圏を見据えた物流効率化への課題

1 主要品目の流れにおける問題点を一貫して把握

物の流れは複雑であり、問題点も多種多様です。物流効率化に向け、産業とかわり合いの大きい品目や、暮らしに密着した品目など、主要な品目の流れを捉え、その流れに沿って問題点を把握・分析することで、物流の現場が抱えている課題を捉えました。

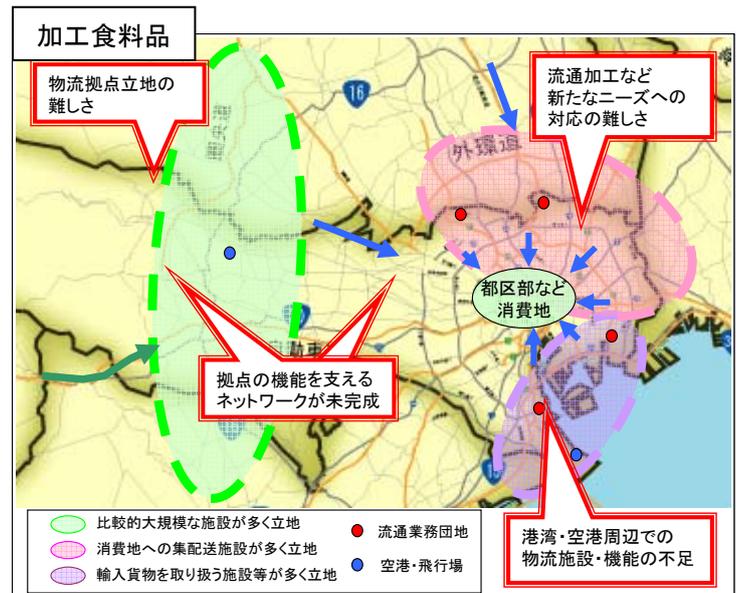
(1) 産業にかかわる品目(電気機器)

- ・電気機器は主要な輸出品目の一つであり、多摩地域のほか、群馬県太田市や栃木県宇都宮市など北関東の工場から東京港等への輸送も多い。
- ・大型貨物車が走行できないボトルネック箇所や道路整備の遅れなどの問題点が挙げられた。



(2) 暮らしに密着した品目(加工食料品)

- ・加工食料品は全国各方面から輸送され、郊外部の広域的な物流拠点を経由し、消費地周辺の物流拠点から配送されることが多い。輸入も多く、港湾エリアを経由することが多い。
- ・物流拠点の立地、流通加工等の新たなニーズへの対応などについての問題点が挙げられた。



2 効率化に向けた課題

これらの分析を踏まえると、物流効率化を推進するうえで、生産から消費まで、以下のような様々な課題の解決が必要となっています。

物流ネットワークの早期構築

- ・3環状道路の整備促進
- ・多摩地域や港湾エリアなどでの道路整備推進
- ・大型貨物車の走行におけるボトルネック箇所の解消

国際物流への対応強化

- ・東京港でのコスト削減や手続き所要時間の縮減に向けた港湾サービスの向上
- ・増大する港湾・航空貨物に対応した機能強化

事業者や地域での取組促進

- ・物流拠点立地に向けた適地の確保
- ・中小企業での効率化に向けた金融支援や人材育成
- ・繁華街での荷さばきによる混雑の改善

環境・安全などの向上への連携強化

- ・モーダルシフトの促進
- ・大型貨物車の走行改善による東京の魅力向上
- ・物流面からの食の安全・安心確保や防災性の向上

今後東京都が取り組むべき物流対策

取組1 効率的な物流ネットワークの構築

大型貨物車の走行上のボトルネック箇所を解消するとともに、3環状道路をはじめとした道路整備により、港湾・空港エリアと内陸部の接続を強化し、陸・海・空のネットワークを構築します。

物流ボトルネックの解消

- ・都大橋、新荒川大橋など橋梁耐荷力向上等による重さ指定道路の拡充
- ・国や関係自治体に要請し、首都圏で連携してボトルネック箇所を解消
- ・様々なボトルネックの解消
 国道16号松原地区の走行円滑化
 主要交差点の渋滞対策強化 など

物流を支える道路ネットワークの整備

- ・3環状道路の整備促進。中央環状線品川線を高さ指定道路化
- ・多摩の骨格幹線道路の整備、近隣自治体と連携したネットワーク形成
- ・臨海部の交通ネットワーク強化
 東京港臨海道路Ⅱ期事業の促進
 新木場周辺のネットワーク整備 など

技術革新に応じた新たな物流基盤の創造

- ・流通業務団地を活用した新技術等の活用の可能性検討
- ・港湾における情報ネットワークシステムなどIT活用による荷役・配送効率向上
- ・産学公連携による推進体制構築
- ・地下空間等を利用した新たな物流システムの検討

取組2 国際的な物流機能の充実

東京港の機能拡充や運営効率化などを通じて、取扱量増加などに対応するとともに、羽田空港の国際化による航空貨物需要増大への対応を図るなど、国際的な物流機能を充実させます。

国際貿易拠点としての東京港の能力増強

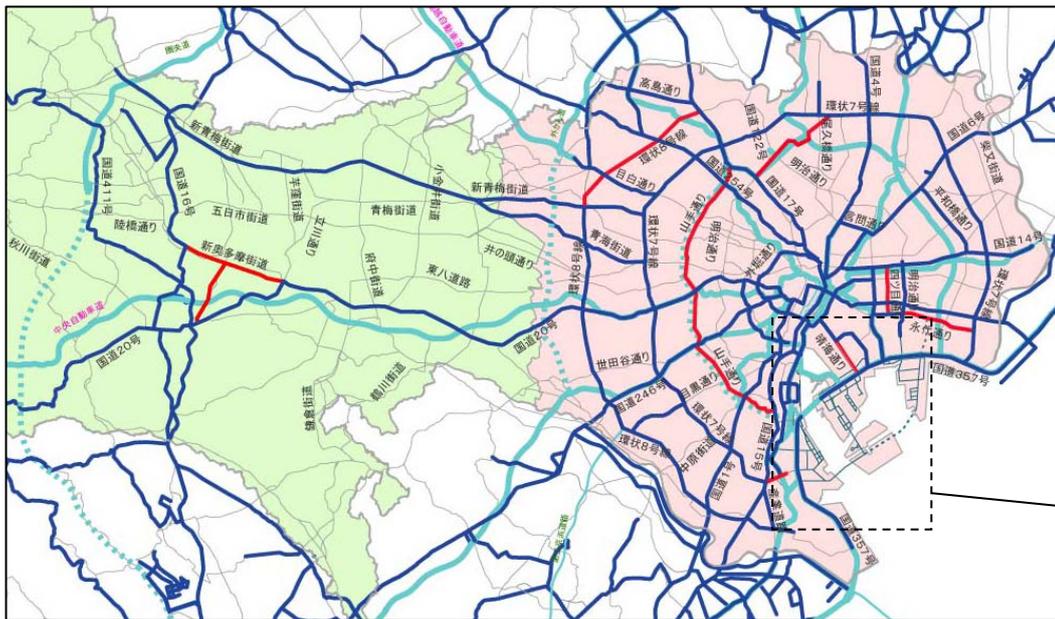
- ・中央防波堤外側埋立地における外貿コンテナターミナルの整備
- ・大井コンテナターミナルと背後地の一体的運営の検討
- ・コンテナヤードの拡張やバンプール等の確保

港湾運営の効率化

- ・日曜日のゲートオープン拡充などフルオープン推進
- ・コンテナヤードの共同使用、相互融通など施設の高度利用促進
- ・京浜港間のコンテナ横持ち輸送効率化に向けた実証実験など、京浜3港連携推進

航空貨物増大への対応

- ・平成21年末供用開始に向け、羽田空港再拡張・国際化の着実な推進を国に要請
- ・空港周辺の道路整備や貨物取扱施設等の物流拠点の配置等について、空港、港湾、道路の連携を強化



右図参照

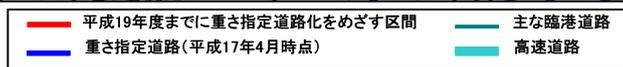


図 大型貨物車が走行可能な指定道路

取組3 首都圏を支える物流拠点整備の推進

区部流通業務団地の更新、港湾エリアの中央防波堤外側埋立地での高機能物流拠点形成、多摩地域における物流機能強化など、物流拠点整備の推進とともに、拠点立地を支援します。

区部流通業務団地の機能更新

- ・施設の建替による容量拡大を図りつつ、物流需要に応じて機能を更新
- ・各業種の物流機能の高度化に対応して施設や設備の更新を誘導
- ・更新に合わせた街区の統合や土地利用規制などの見直し

港湾エリアにおける高機能物流拠点の形成

- ・中央防波堤外側埋立地に高機能物流拠点を形成
- ・在庫管理や配送機能、冷凍・冷蔵倉庫施設の充実・強化
- ・既存老朽施設の再編、機能更新に向けた資金調達等の仕組づくり

多摩地域での物流機能強化

- ・東京西南部物流拠点整備に関する基本方針の策定
- ・市街化調整区域の役割を踏まえつつ、物流効率化に資する施設立地の開発許可のあり方を検討

取組4 地域の活性化に向けた物流対策の推進

荷さばきスペースの確保や共同配送促進など、地域での取組を支援するとともに、地域での物流を支える中小企業における物流効率化を支援していきます。

荷さばきスペース拡充プロジェクト

- ・民間事業者と連携して荷さばきスペースの増大に向けた仕組づくり
- 道路高架下等の公有地活用
- 国や区市町村へ公有地活用を要請
- コインパーキングなど民間駐車施設の有効活用に向けた仕組づくり

共同配送など物流効率化に向けた地域での取組支援

- ・百貨店などでの共同配送促進
- ・地域の荷さばきルールの方策や商店街などでの荷さばき対策の推進
- ・地区物流効率化に取り組む事業者を各種の支援を組み合わせる総合的な認定制度を創設
- ・都内中小企業グループ等による先行的取組を支援(平成18年度募集)

物流効率化に取り組む中小企業への支援

- ・物流効率化に向けた普及・啓発・相談
- ・中小企業振興公社や技術専門校等を活用した企業や団体向けの人材育成支援
- ・制度融資を活用し施設や機器の改善に対して金融支援



図 港湾エリアにおける物流機能の強化

取組5 物流改善による環境・都市生活の向上

既存ストックの有効活用や大型貨物車の走行改善により、効率化とともに環境負荷低減や都市の魅力向上を図るとともに、物流における安全・安心を高めていきます。

ネットワーク・拠点の有効活用による環境負荷低減

- ・モーダルシフトの促進
- ・インランド・デポを活用したコンテナのマッチングによる片荷輸送削減
- ・高速道路の弾力的な料金体系構築により、大型貨物車を高速道路へ誘導
- ・環境に配慮した道路整備推進、道路とまちづくりを一体とした環境軸の形成

大型貨物車の走行改善による東京の魅力向上

- ・中央環状線整備に合わせて大型貨物車の過度な都心部流入の抑制方策を検討
 - 3環状道路など環状道路整備、高速道路への貨物車の誘導
 - 散在する物流拠点の集約促進
 - 特定路線の交通規制を含めた走行ルールの検討 など

安全・安心の向上に向けた物流改善

- ・豊洲新市場の整備、IT活用などによる卸売市場での効率化、食の安全・安心確保
- ・都内消費食料品の物流過程での安全・安心向上
- ・東京港における保安対策
- ・ICタグを活用した港湾車両出入管理
- ・道路網や港湾の耐震性向上など、防災面の安全性向上

■ 物流効率化に向けて

- ・物流効率化に向けたいくつかの取組については、「平成18年度重点事業」に選定し、重点的・集中的に実施していきます。今後、直ちに施策展開できるものは早急を実施するとともに、検討を要するものについても速やかに具体化を図り、スピード感を持って取り組みます。
- ・民間をはじめ、区市町村、周辺自治体、国等との連携を強化し、首都圏を視野に入れた広域的な連携を図りながら効率化を進めます。
- ・物流を取り巻く環境は、技術革新などによりこれからも急激に変化していくことが予想されます。今後、社会経済状況等の変化に応じて「総合物流ビジョン」の見直しを適切に行い、取り組むべき施策を時代変化に即した実効性あるものにしていきます。